

令和3年度 第2回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和3年12月23日（木） 午前10時00分～12時00分

会場：オンライン開催（事務局：千葉県立中央博物館 会議室）

出席者：（※ オンライン出席）

委員	西田委員（議長）、高橋委員※（副議長）、 篠崎委員、細井委員、湯浅委員※、米本委員※
博物館	美術館：倉原館長※、鈴木普及課長※ 中央博物館：古泉館長、植野副館長※ 現代産業科学館：鈴木輝人館長※、植野普及課長※、竹内学芸課長※ 関宿城博物館：鈴木淳一館長※、尾崎学芸課長※ 房総のむら：望月館長※、大森副館長※
文化財課	田中課長、学芸振興室：立和名室長
事務局	中央博物館：島立企画調整課長、相原上席研究員、 吹春上席研究員（記録）、水野研究員、石井研究員

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 県立博物館・美術館における地域との連携
・補足資料：千葉県立博物館今後の在り方概要

1 開会【事務局】：午前10時00分

委員10名のうち6名の出席（うちオンライン3名）により会議成立。
傍聴者なし。

2 あいさつ【中央博物館・古泉館長】：午前10時03分～10時04分

3 行政説明【文化財課・田中課長】：午前10時05分～10時16分

4 議事：午前10時22分～11時58分（別紙参照）

5 諸連絡【事務局】：午前11時58分～12時00分

6 閉会：12時00分

【議事】

○西田議長：

議長の西田でございます。本日も活発な御協議よろしくお願ひ申し上げます。

○西田議長：傍聴者は本日もございますか。

○事務局：いらっしゃいません。

●議事「県立博物館・美術館における地域との連携」

○西田議長：

それでは議事にはいります。

この2年ほど新型コロナの影響もあり、各館からは新型コロナ以前の活動も含めて御紹介いただくということで、5年、10年というスパンで各館の特色のある活動の紹介をお願いします。

この協議会は、各館のパフォーマンスを最大限に引き出すためのアドバイスを行う組織であると考えております。われわれ協議会委員の意見が、各館の持っている底力を引き出し、さらにパワーアップするためにお役に立つならばと思っております。各委員の方々には活発な御意見をいただきたく、よろしく願ひ申し上げます。

議事資料に沿って各館から説明をお願いします。

○事例報告

【美術館・倉原館長】（資料2～4頁）

○西田議長（意見）：

たくさんの行事や活動の実施について御紹介をいただきました。今後どのような連携に向けて力を入れていきたいかについても教えてください。

○美術館（館長）

現在、当館で参加している「千葉市近隣美術館連絡会」を中心とし、近隣の美術館との連携強化に向けて動きたいと考えております。そして新型コロナの影響で低下した活動をできるだけ早く立ち上げなおし、元の活発な姿へと戻っていきたくと考えております。

○事例報告

【中央博物館・植野副館長】（資料5～8頁）

【現代産業科学館・鈴木館長】（資料 9～11 頁）

○篠崎委員（意見）：

私は市川市で長く勤務しております。現代産業科学館の周囲には市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）、コルトンプラザ、市川市中央図書館などが並んでおり、その広いエリアで、多くの市川市の市民が週末などを過ごします。そのように人が集まる場所で、御紹介頂いたような多彩な活動が行われているのは大変に有意義なことだと思っており、これからも活動を是非継続していただきたいと思いました。

○細井委員（意見）：

県立美術館、中央博物館、現代産業科学館、それぞれ外に積極的に出て行く前向きな取り組みを行っていただいております。そのような活動は最も必要で大切なことだと思っております。また各館それぞれ異なる分野で特色のある博物館活動を行っていただいておりますので、今後とも是非継続し重点的に進めていただきたいと思いました。

○事例報告

【関宿城博物館・鈴木館長】（資料 12 頁）

○西田議長（意見）：

関宿城博物館は交通に不便な場所にあるということになっていますが、チーバくんの鼻にあたる部分で、関東の中央、いわば「へソ」に位置し、県や市町村をまたいでの活動に便利という珍しい場所にある博物館だと思います。桜の名所という御紹介もありましたが、サルスベリという花期の長い樹木の名所でもあり、まだまだ発展性のあるところであると常々期待しております。

○事例報告

【房総のむら・望月館長】（資料 13～14 頁）

○西田議長：

それぞれの館の特性に応じて説明をいただきました。それでは総合討論ということで、今御紹介いただいた内容全体について御質問・御意見をお願いします。

○米本委員（意見）：

各館ともに地域との連携ということで積極的に博物館の外にでかけ活動に取り組んでいただいているということを伺い感心致しました。ただやはり、全体的にみると新型コロナ

の影響で、いろいろな活動やイベントが制約されている実態もよくわかりました。

この新型コロナというものがいつまで続くのかよくわかりませんが、ポストコロナの時代というのは、ウイズコロナの時代、とも言われています。しばらくこのように制約された状態が続くということだと思のですが、そのような中で必要なことは、PR、すなわちどのように情報を発信していくかということ、インターネットを活用したイベントをもっと積極的に行っていく必要があるのではと思います。

例えば講座や講演会を開くにしてもオンラインで講演会を開催すると遠隔地の方々も参加できる、何百人という方々が参加できるということになります。そうしますと、次の段階として各館がどのような情報を発信していくかという点が問題になってまいります。また、例えばコンテストを実施するという場合でも、実際に会場に来てということ以外にも、ウェブ上でのコンテストを毎年行うということも十分可能です。このようなことも是非御検討ください。

○西田議長：

オンライン活用を実践されている博物館はありますか。

○中央博物館（回答）：

学校の出前授業をオンラインで行ったことがあります。すなわちタブレットを持って展示室を回り、それを学校で映写し、学芸員が解説を加えるということを数回ですが実施しました。

○篠崎委員（意見）：

各館とも、官民いろいろな施設や団体と様々な形で連携を企画実施し努力されていることに感心しました。

博物館、美術館等の施設は、地域にとって地域社会の活動を活発にし、地域の教育力の向上のために、とても重要な存在だと思います。しかし施設が遠い近いといった地理的距離が利用する方々にはかなり影響しているように思います。施設が近い、行きやすいといったアクセスの良さによって、設置されている地域とのつながりが強くなっています。

どうしても距離的に遠い地域にとっては、活用しにくく敷居が高い存在となってしまいます。こういった意味から、地域住民にとって博物館のコレクションや学芸員が持っている専門性を含めた博物館が有する財産を提供発信できる場所として、距離的にも近く身近な施設である公民館や学校を、より活用していくことも必要なことだと思います。

公民館で実施されている主催講座、イベント等や学校への出前授業等での学芸員の派遣が、単発ではなく継続的に行われていくためにも、博物館、美術館等の施設と各地域の公民館や学校、双方からの積極的な情報発信や働きかけが重要だと思います。

○湯浅委員（意見・質問）：

各館の活動がとても活発であることに感銘をうけました。それとともに、千葉の博物館の多極化による展開という強みが最もよく出ているとも思いました。より施設が少ない他県などに比べとても活発だと思いました。

課題としましては、この活動をどのようにアピールしていくかということだと思えます。例えば、他の自治体をみますと、博物館ウイーク、文化財ウイーク、地域連携ウイーク等、時期を区切ったような、横の連携をもった宣伝の方法が威力を発揮することもございます。千葉県の多角的な博物館活動を、どのように統一して県民に見せていくか、何か試みがあれば教えて下さい。これが1番目の質問です。

また他の委員の御意見にもありましたように、現在ではITを利用した活動というものが求められますが、これだけ多様な活動を利用者がどのように検索できるのか、ということも大切なことだと思います。すなわち県民の皆さんが、これだけの多様な県内博物館の活動のラインナップを、どのように見ることができるか、そのカタログ化や情報発信の統一化、というものも必要なのではないかと思いました。この点についても何かございましたら教えて下さい。これが2番目の質問です。

○中央博物館（回答）：

1番目の御質問ですが、横の連携である、例えば「博物館ウイーク」、「ミュージアムウイーク」といった活動は、残念ながら現在のところございません。各館の立地条件、専門のテーマ、効果的な時期にあわせて、それぞれ宣伝を行っているというのが実情でございます。今回の御意見を活かしたような活動を行っていく必要があると、改めて思った次第です。

○西田議長（意見）：

中央博では博物館に集う様々な団体が参加し11月3日の文化の日に「自然誌フェスタ」という活動を毎年行っておられます。それが横の連携をもった宣伝活動の一つであるかもしれませんね。

○中央博物館（回答）：

2番目の質問である、博物館事業の「カタログ化」、「検索できる情報発信の統一化」ということについても、現状では行うことができておりません。そのような発想も無かった、というのが現在の県の博物館の実情でございます。1番目の質問の、横の連携につきましても、それぞれの施設の実情という壁をクリアしながら、県民が容易にアクセスできる情報の発信、情報のカタログ化につとめていきたいと思っております。

○高橋委員（意見・質問）：

いろいろな取り組みを各館行っておられることに改めて驚いた次第です。

ひとつ質問がありますが、このような連携や事業への取り組みは、博物館側からの発想なのか、利用者からの要望を生かしたものなのか、すなわち「利用者ニーズの把握の方法」の現状についてお伺いしたいと思います。何故かと申しますと、今後のこのような連携事業をどのように進めていくかということに深く関わるのではと思った次第です。これが第1の質問です。

もう1点、ウェブを利用するということですが、現在、博物館の活動関心を持っていただけるのは、高齢者が多いのではないかと思うのですが、それらの世代にとってウェブからのアクセスはハードルが高いのではと思いました。すなわち2番目の質問として、高齢者世代へのウェブサービスのハードルをどのように下げていくか、について伺いたいと思います。篠崎委員の御意見にもありましたように、県の事業展開として各地の公民館や図書館をつかって博物館へのアプローチを容易にするという方法もあるかと思います。このことについては、いろいろと蓄積されたノウハウがあるのではと思いますが、そのあたりの事について教えてください。

○中央博物館（回答）：

高橋委員の最初の質問ですが、中央博物館の場合は、能動的に出て行くという事業について本日御紹介しました。受け身の事業の場合は、実に様々なものがございまして今回は紹介を省いております。同様に各館にも種々多用な事例があると思います。

次の質問の、ノウハウの共有化、ということですが、このことについては、この10年ほど県立博物館・美術館の中で課題になっていることです。現在、県立博物館・美術館におきましては世代交代の時期になっており、博物館技術の継承ということで、県立館を統括する県の文化財課が主催し、様々なテーマで有形無形のスキルの継承を目標に研修会を実施しております。そのような研修会などを通して、連携についてのノウハウなども継承していくことができると願っております。

○高橋委員（意見・質問）：

利用者からの要望を生かした受け身の行事についてですが、そのような県民からの要望をとりまとめる部署があり、そこにアプローチすれば企画の希望が叶う、というような仕組みも考えていただければ、と思います。

○西田議長：

本日は各館の実に多様な活動を御紹介いただき本当にありがとうございました。その様々な活動を、どのように県民の皆さんに周知していくかということが課題であることも確認できたと思います。

これで議事は終了いたします。事務局に議事の進行をお返しします。

○事務局：

本日の議事録につきましては、追って委員の皆様に御確認をいただき、ウェブサイトにおいて公開させていただく予定です。

以上で、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。